
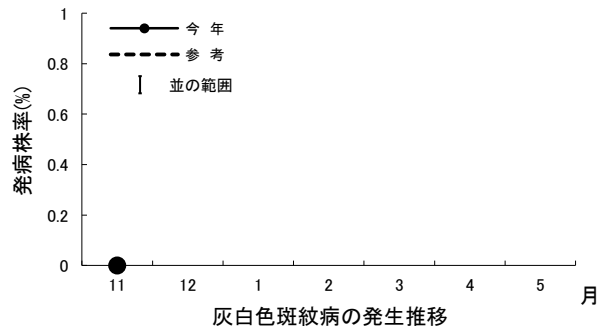


作物	ゴーヤー（施設）	地域	宮古群島	
病害虫名	灰白色斑紋病			
11 月の発生量（現況）	(発生なし)判定不可			
12 月の増減傾向				
増減傾向の根拠	データの蓄積不足のため、判定保留。			

発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月下旬の調査の結果、発病株率は0%であった。


(今年のデータ)



(過去2年のデータ)

防除のポイント

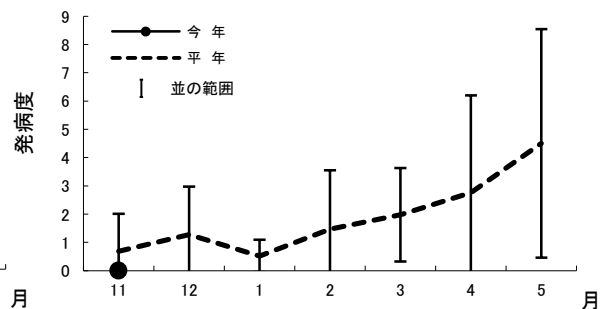
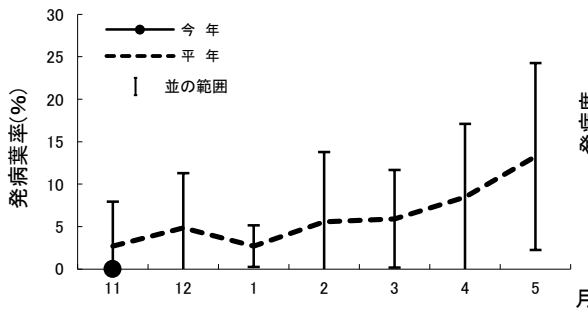
- ・ 本病はミナミキイロアザミウマによって媒介される。
- ・ 感染した株は発生源となるため見つけ次第抜き取り、ビニール袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
11月の発生量（現況）	(発生なし)並		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移、今後1ヶ月の降水量が多い見通しから、11月より発生量は増加すると考えられる。		

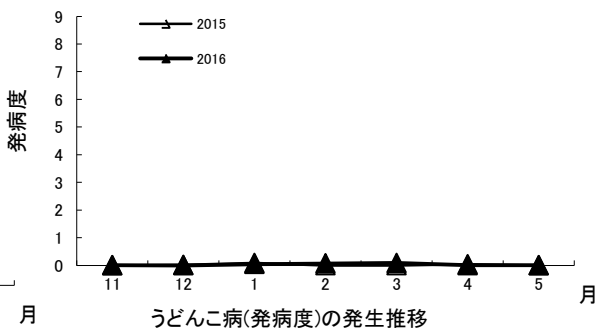
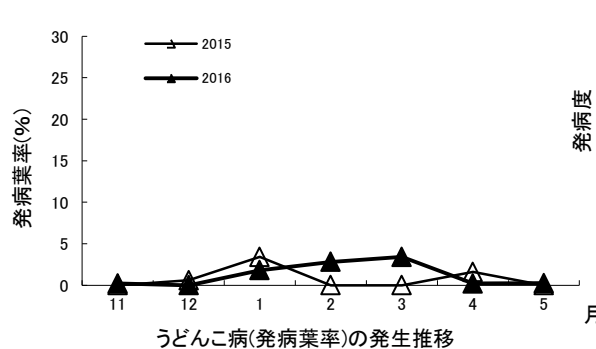
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月下旬の調査の結果、発病葉率は0%（前年0.2%、平年2.7%）、発病度は0（前年0.1未満、平年0.7）と平年並であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ） うどんこ病(発病葉率)の発生推移



防除のポイント

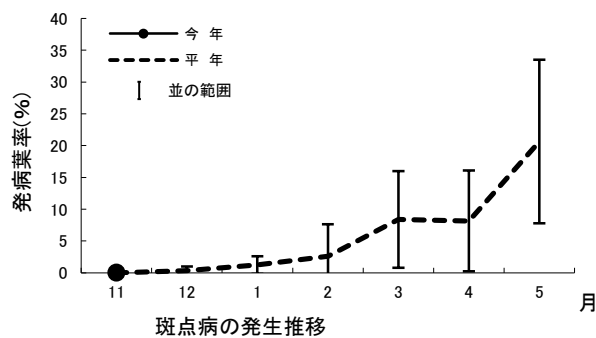
- ・ 老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	宮古群島	
病害虫名	② 斑点病			
11月の発生量（現況）	(発生なし)並			
12月の増減傾向	↗			
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移、今後1ヶ月の降水量が多い見通しから、11月より発生量は増加すると考えられる。			

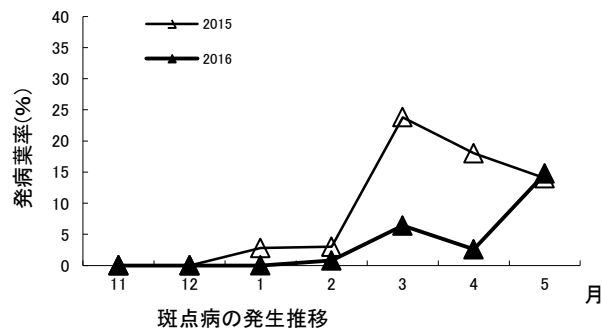
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月下旬の調査の結果、発病葉率は0%（前年0%、平年0%）と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

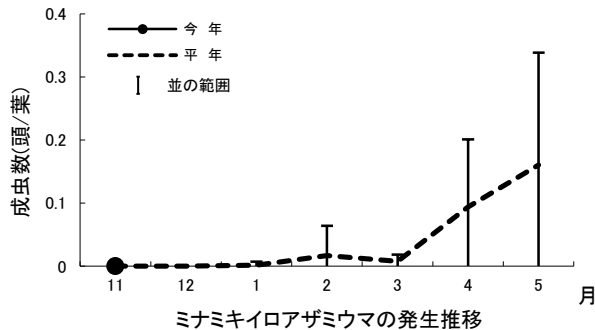
- ・ 葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・ 老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・ 多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	宮古群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		
11月の発生量（現況）	(発生なし)並		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

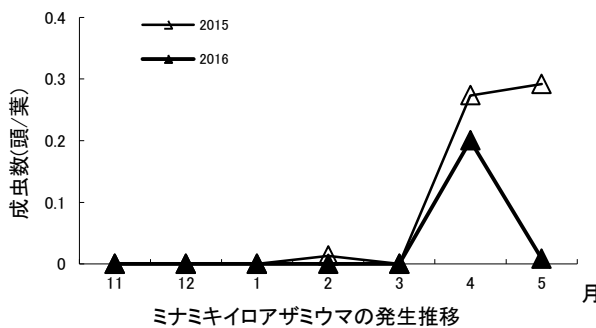
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0頭（前年0頭、平年0頭）と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

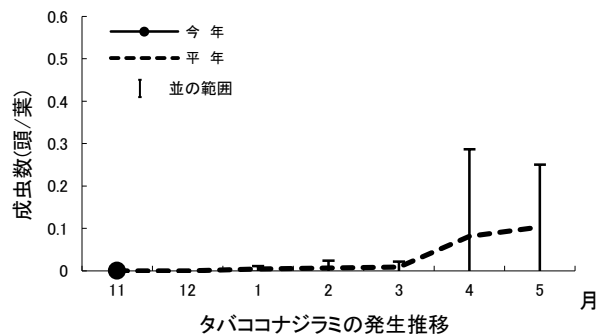
- ・ 本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	宮古群島
病害虫名	⑤ タバココナジラミ		
11月の発生量（現況）	(発生なし)並		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

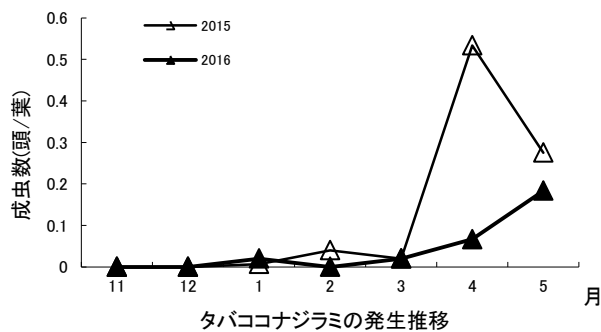
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0頭（前年0頭、平年0頭）と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

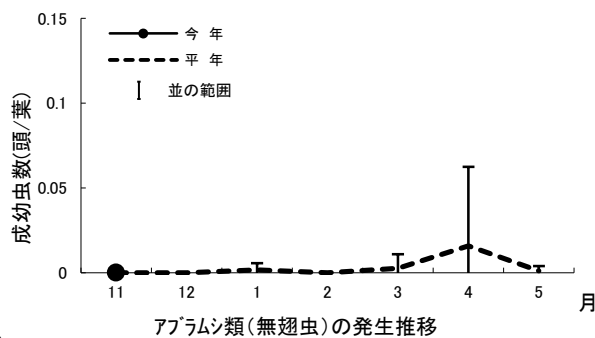
- ・ 多発すると排泄物によるすす病が発生し、光合成を阻害する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	宮古群島
病害虫名	④ アブラムシ類		
11月の発生量（現況）	(発生なし)並		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

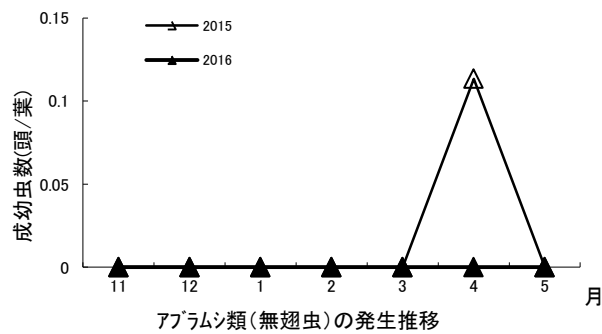
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0頭（前年0頭、平年0頭）と平年並であった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

- ・ 本種はウイルス病を媒介する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 発生初期は局所的に発生するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。